

コロナ対策 紫外線光源装置1110台導入

従業員の安全意識更に高まる

大林道路

ナに対する意識がより高まっているという。一人ひとりの基本的な感染予防対策と併せて相乗効果があり、安心・安全に24時間体制で除雪業務を行っている。

ルス、O・157大腸菌や新型コロナウイルスを含むほぼ全てのウイルスや細菌を不活性化する効果が確認されている。

同装置は、ウシオ電機

経済活動を脅かす感染症は以前にもSARS(02年)、鳥インフルエンザ(04年)、MERS(12年)などが発生しており、同社は今後も対策を備えておく必要があると考えている。また、新型コロナウイルスについて、今後も予断を許さない状況が続くと予想されることから予防対策を徹底するとともに、同装置のような新技術の導入を積極的に行い、安心・安全を心がけた事業活動を継続していく方針。

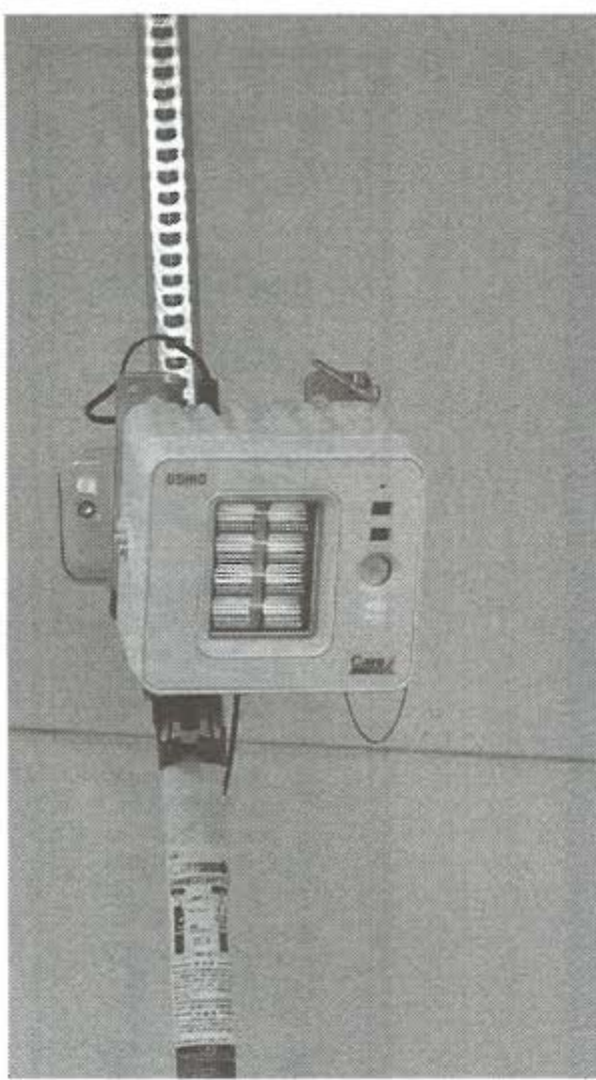
大林道路は、昨年11月から事業所内に新型コロナウイルス感染対策として、殺菌、ウイルスの不活化能力を保持した紫外

線光源装置「Care2 22」II写真IIを導入した。従前からの予防対策を徹底するとともに、同装置のような新技術の導

入を積極的に行い、従業員の安心・安全を心がけた事業活動を継続している。

止対策を実施。収束が見通せない中、従業員の健康管理が第一と考え、11月から同装置を導入し今年2月現在で全国に約110台を設置した。札幌市内の事務所(北区南地区除雪センター)は、市民生活や経済活動に不可欠な除雪業務を止めることのないようコロナ対策を講じ、同装置を設置。

同装置は、ウシオ電機が米国コロンビア大学の特許を用いて開発したものの。遠紫外線(UVC・222ナノび)を主な波長とするエキシマランプと、人体に無害な波長域のみに制限する光学バンドパスフィルターを組み合わせる同大学の特許を用いて、人や動物の肌、目に悪影響がない紫外線波長域(200〜230ナノび)を照射することができる。インフルエンザウイルス、エボラウイ



イルスの感染が拡大し始めた昨年3月から、検温・アルコール除菌などの対策やテレワーク推進といった感染防

止対策を実施。収束が見通せない中、従業員の健康管理が第一と考え、11月から同装置を導入し今年2月現在で全国に約110台を設置した。札幌市内の事務所(北区南地区除雪センター)は、市民生活や経済活動に不可欠な除雪業務を止めることのないようコロナ対策を講じ、同装置を設置。

同装置は、ウシオ電機が米国コロンビア大学の特許を用いて開発したものの。遠紫外線(UVC・222ナノび)を主な波長とするエキシマランプと、人体に無害な波長域のみに制限する光学バンドパスフィルターを組み合わせる同大学の特許を用いて、人や動物の肌、目に悪影響がない紫外線波長域(200〜230ナノび)を照射することができる。インフルエンザウイルス、エボラウイ